

令和5年度県政モニターアンケート

再犯防止の推進に関するアンケート調査

令和5年11月実施

県民生活部県民生活安全課

1 調査の趣旨

県では山梨県再犯防止推進計画を策定し、各種施策を推進しているが、県民の皆様がどのような意識を持っているのかを調査し、今後の施策の推進に役立てる。

2 調査対象

令和5年度県政モニター 449名

3 調査実施期間

令和5年11月

4 調査方法

郵送・インターネット

5 回答者数

337人（回答率 75.1%）

一般モニター（郵送によるアンケート調査）：158名

インターネットモニター（電子メールによるアンケート調査）：179名

6 集計方法

（1）設問に対し無効回答は集計の対象外とした。

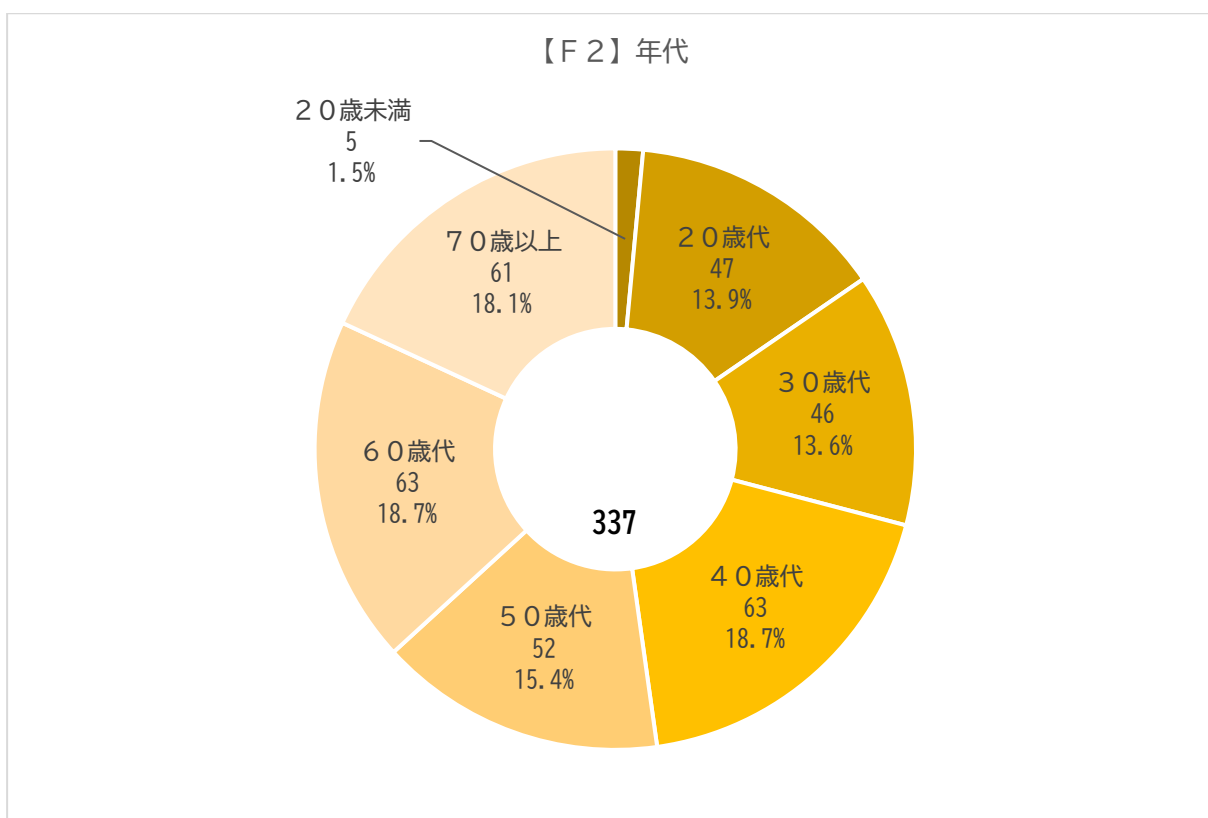
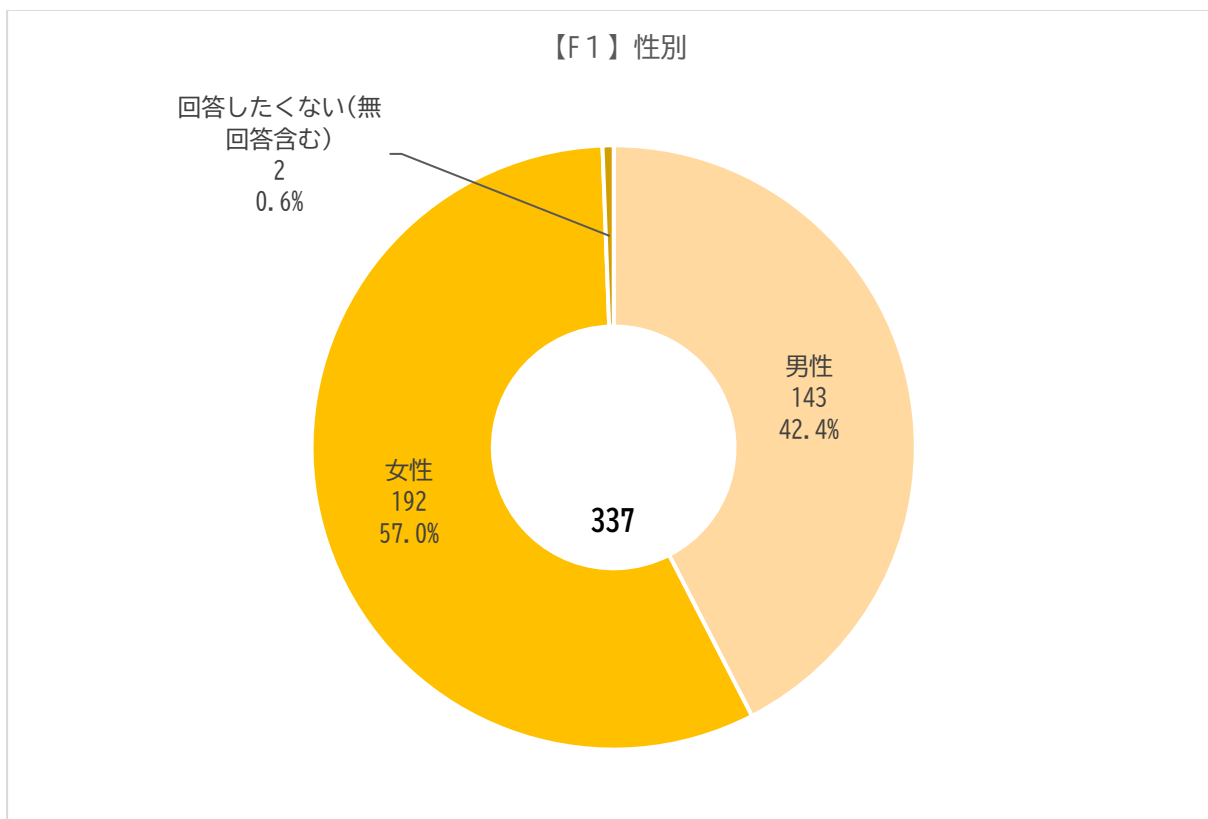
※複数回答以外のものはグラフに無回答者数を表示

（2）該当番号に記載がなく自由記載がある回答は集計の対象とした【一部集計外あり】

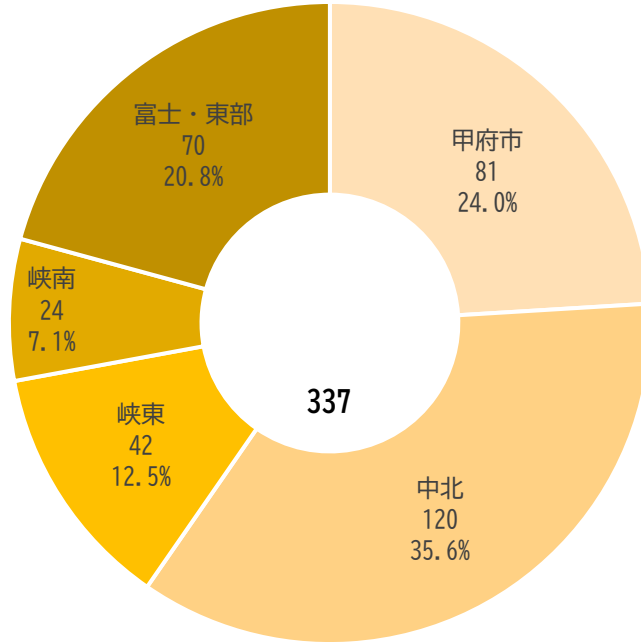
空欄で自由記載があるものの「わからない」旨の内容の場合などは対象外

7 調査結果

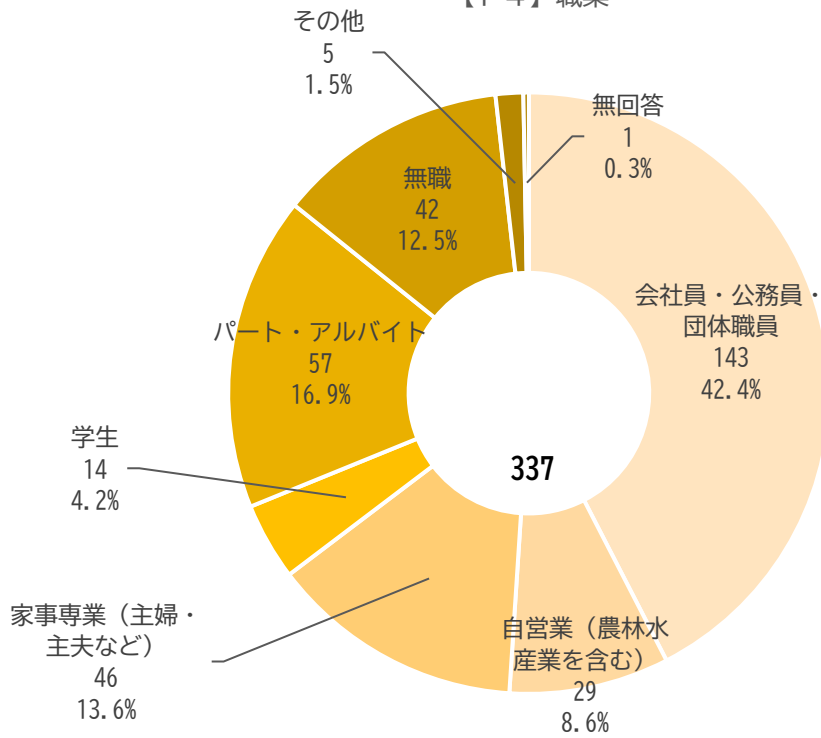
(1) 属性について（回答者の性別、年齢、居住地、職業等）



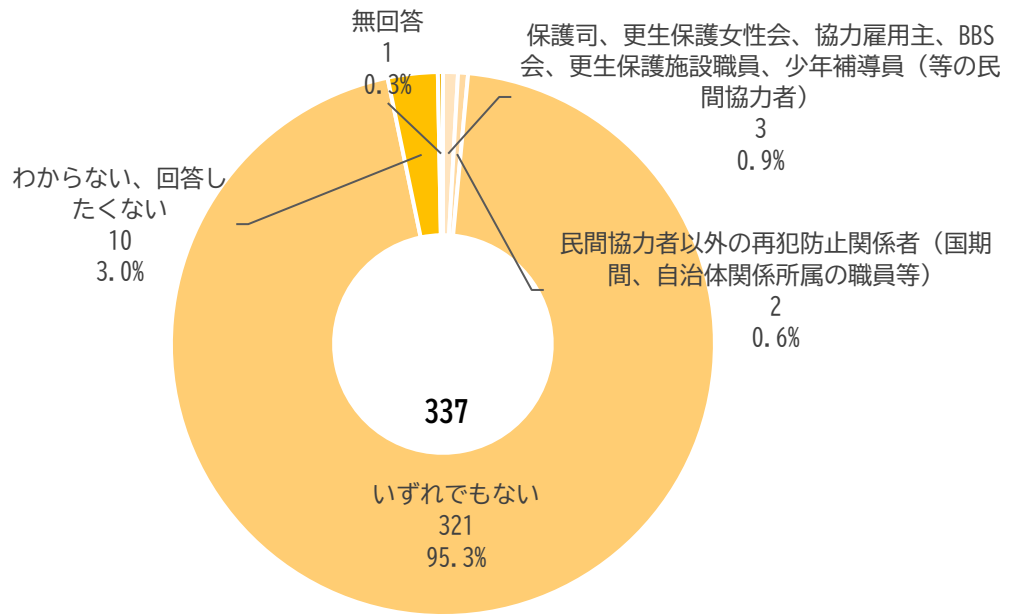
【F3】居住地



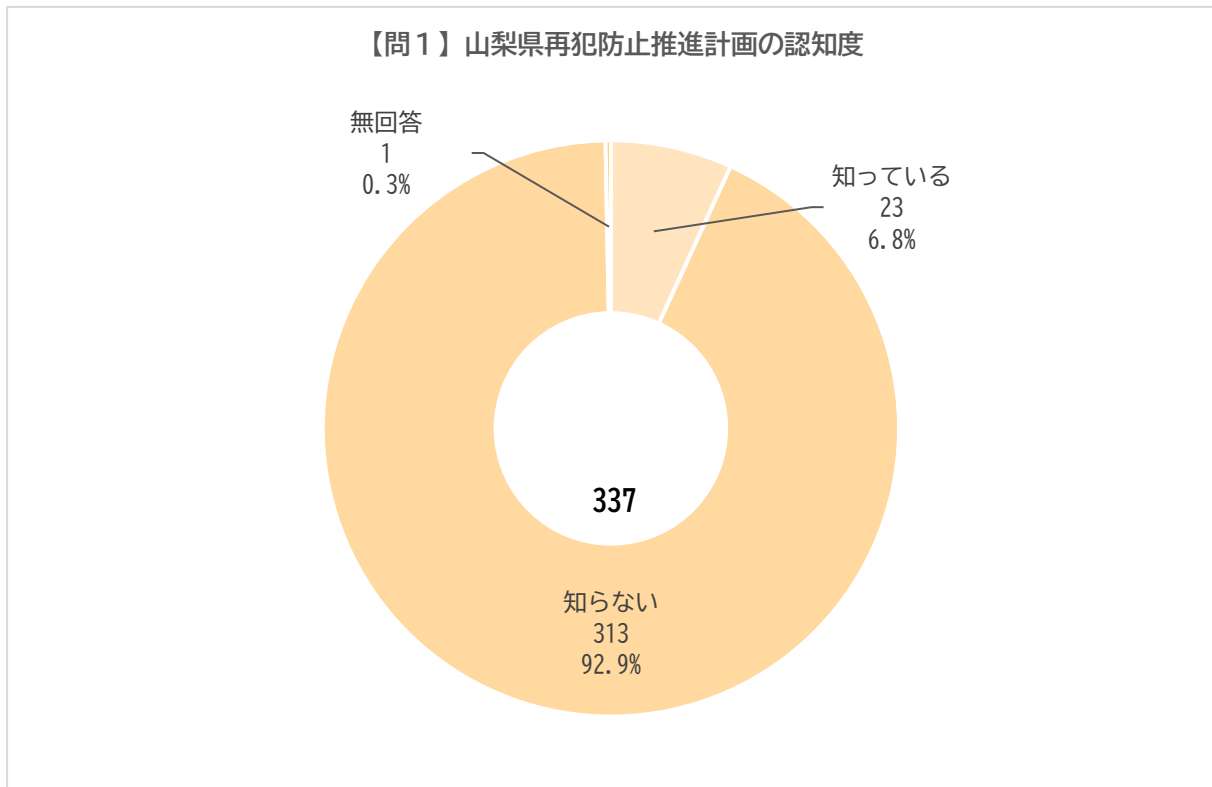
【F4】職業



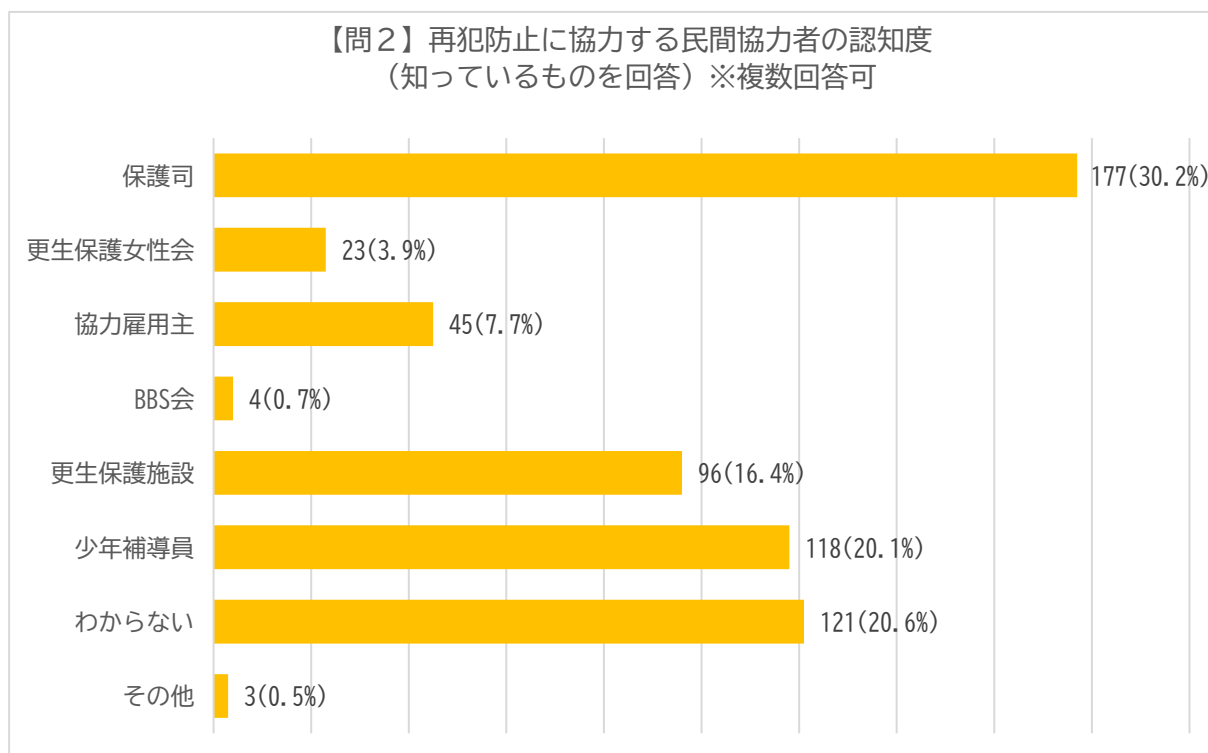
【F5】身分



(2) 再犯防止に関する認知度について



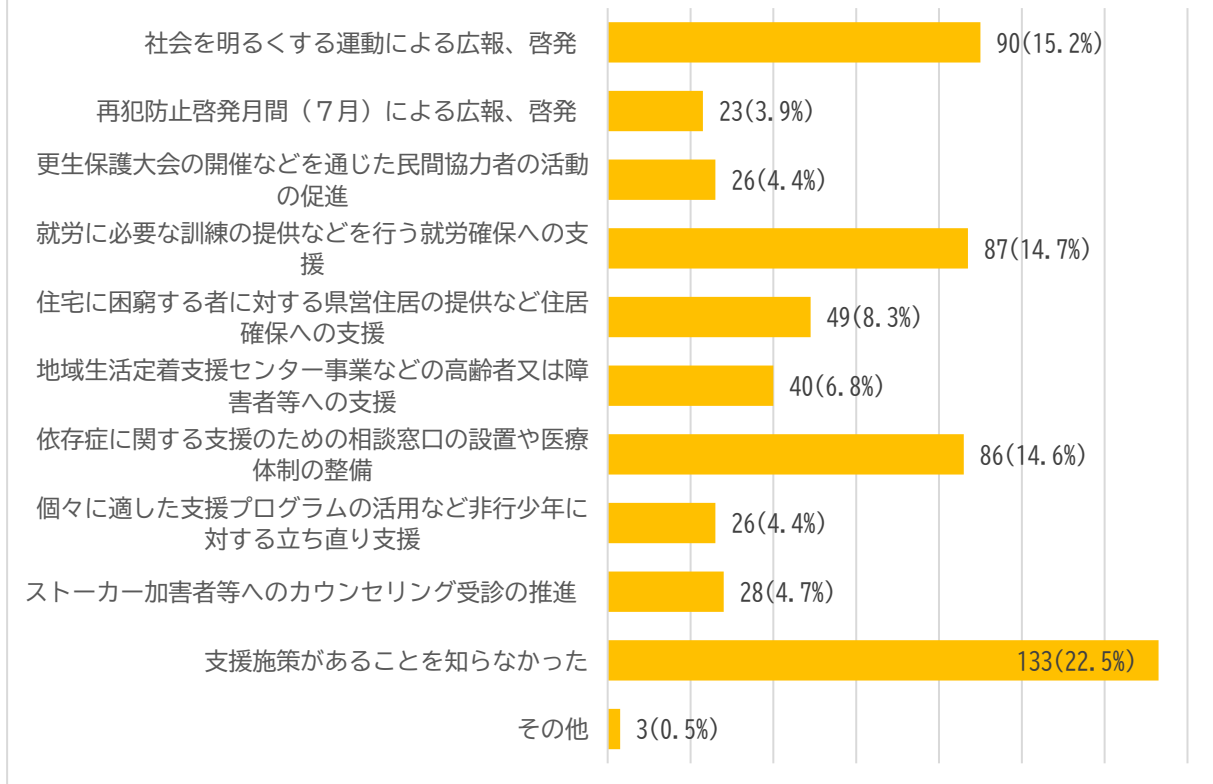
令和2年3月に策定した「山梨県再犯防止推進計画」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が23名（6.8%）、「知らない」が313名（92.9%）だった。



再犯防止に協力する民間協力者を知っているかについて尋ねたところ、「保護司」が177名（30.2%）と最も多く、続いて「わからない」が121名（20.6%）、「少年補導員」が118名（20.1%）だった。

また、その他の主な回答としては「それぞれの言葉は知っているが実際に活動している人は知らない」等であった。

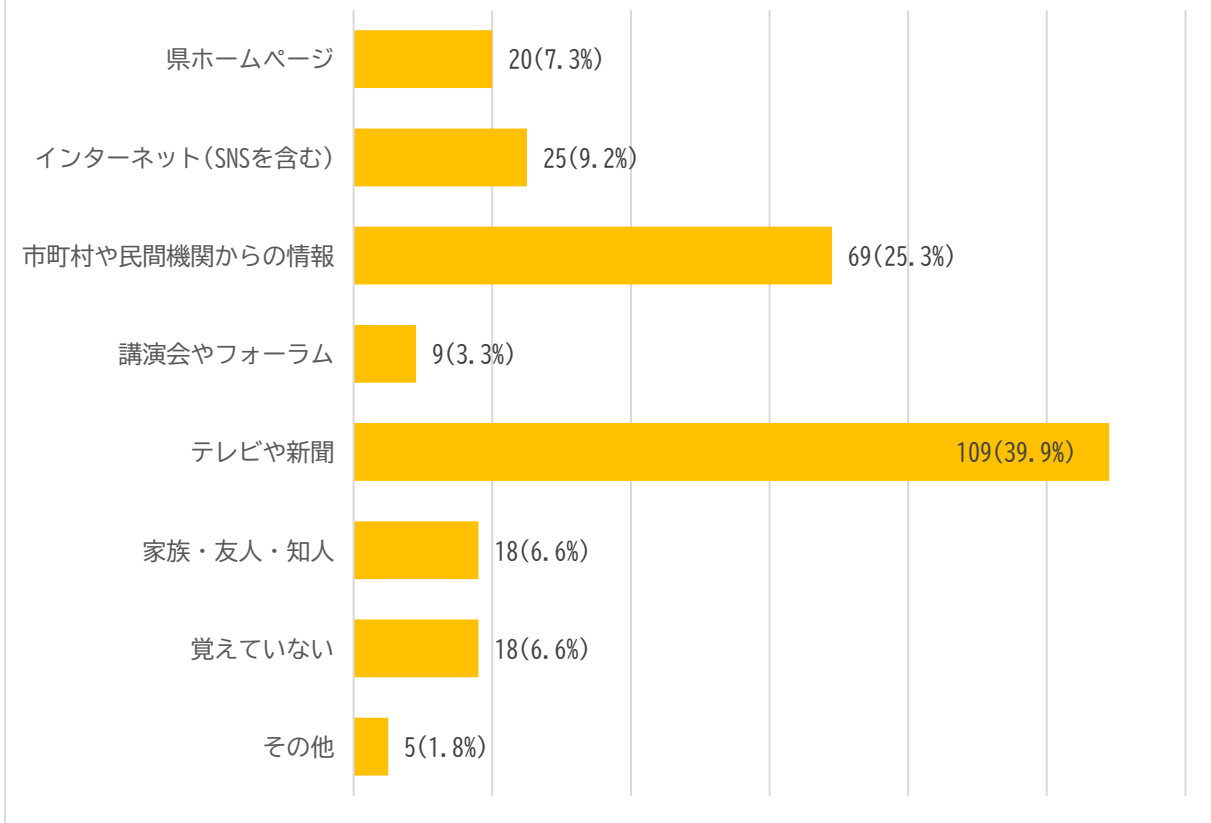
【問3】再犯防止に関する取り組みの認知度（知っているものを回答）※
複数回答可



知っている再犯防止の取り組みについて尋ねたところ、「支援施策があることを知らなかった」が133名（22.5%）と最も多く、続いて「社会を明るくする運動による広報、啓発」が90名（15.2%）、「就労に必要な訓練の提供などを行う就労確保への支援」が87名（14.7%）だった。

また、その他の主な回答としては「何らかの取り組み、支援をしている事は知っているが、具体的に何をやっているかは知らなかった」等であった。

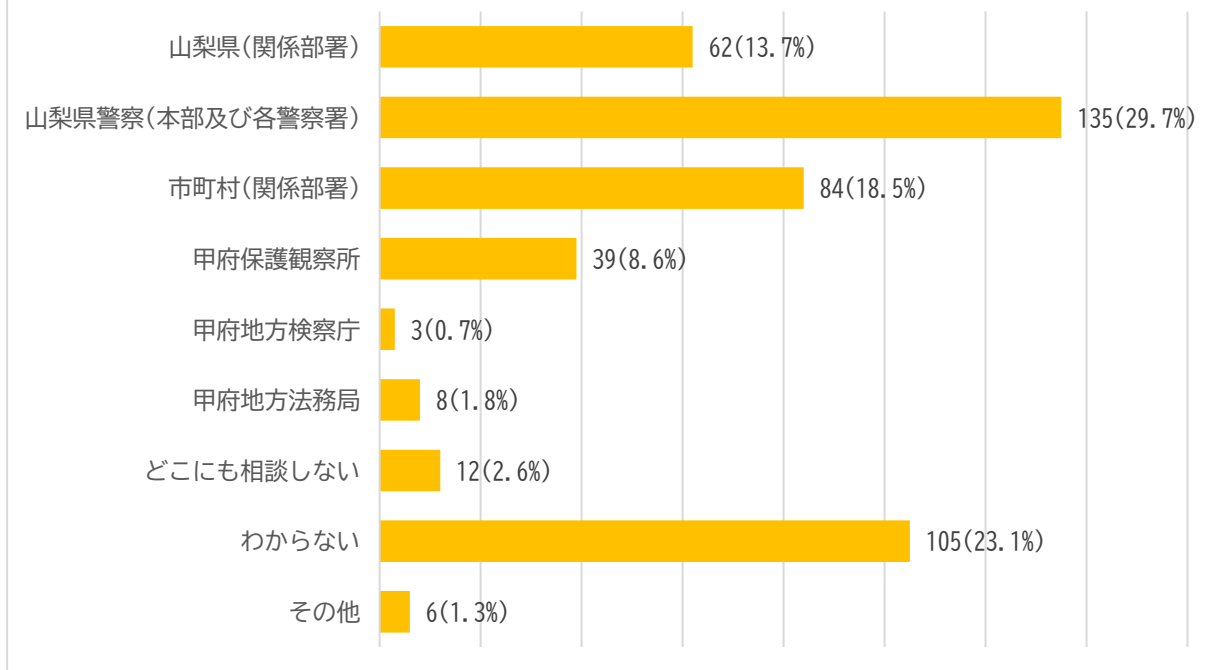
【問4】 知った手段
(問3で知っているとは回答した者に回答を依頼) ※複数回答可



問3で再犯防止の取り組みを知っていると回答した方を対象に、これらのことを何から知ったかについて尋ねたところ、「テレビや新聞」が109名(39.9%)と最も多く、続いて「市町村や民間機関からの情報」が69名(25.3%)、「インターネット(SNSを含む)」が25名(9.2%)だった。

また、その他の主な回答としては「大学の授業」「社会を明るくする運動」のポケットティッシュをもらった」「以前勤務していた職場から」等であった。

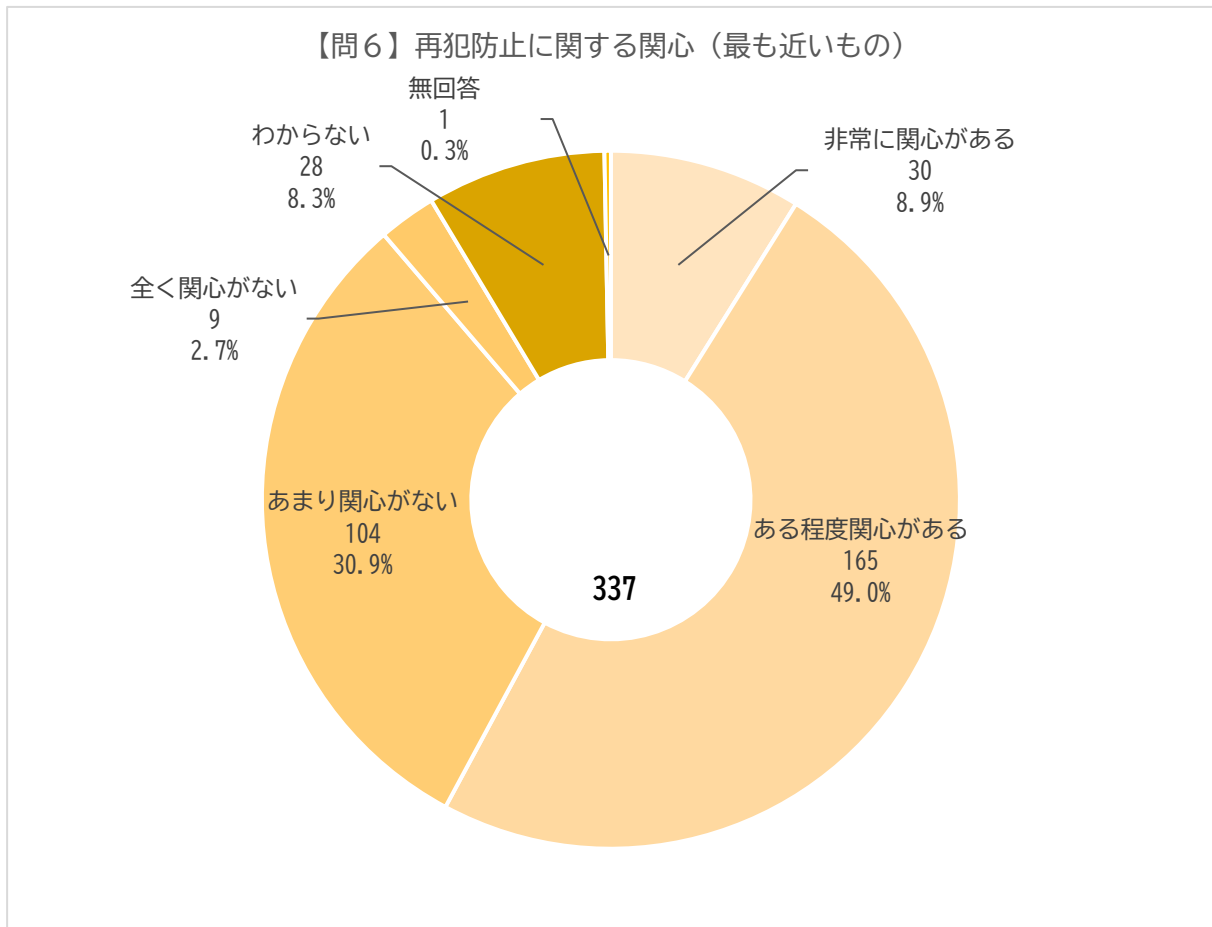
【問5】ご自身やご家族が罪を犯したり、非行をした場合、立ち直りのためにどの機関に相談をするか（実際に相談した場合は、その機関を含めて回答）
※複数回答可



ご自身やご家族が罪を犯したり、非行をした場合、立ち直りのためにどの機関に相談をするか（実際に相談した場合は、その機関を含む）について尋ねたところ、「山梨県警察（本部及び各警察署）」が135名（29.7%）と最も多く、続いて「わからない」が105名（23.1%）、「市町村（関係部署）」が84名（18.5%）だった。

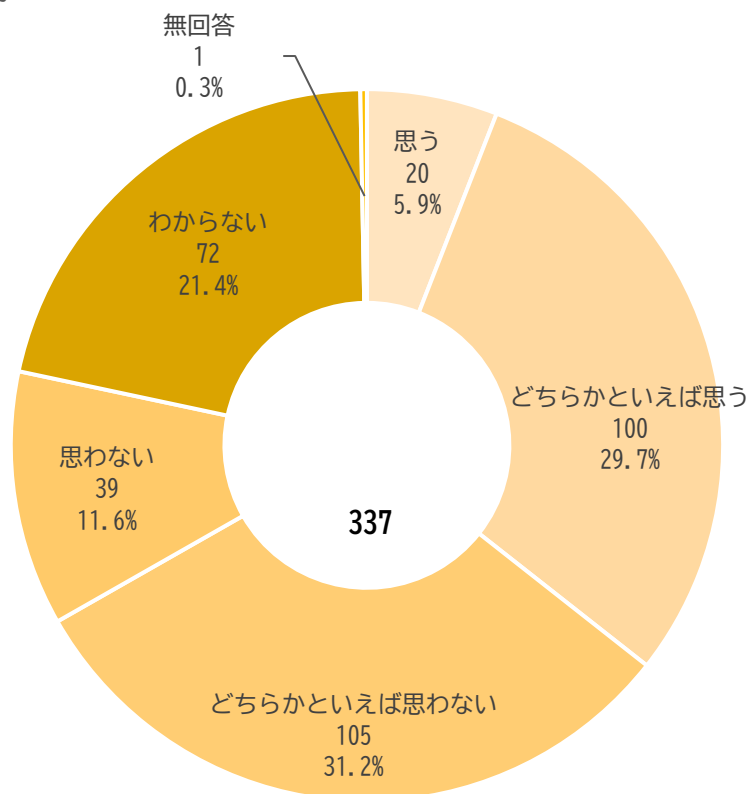
また、その他の主な回答としては「民間団体があるかどうか調べる」「その分野を得意とするカウンセラー、加害家族の会のようなもの」「精神科」等であった。

(3) 再犯防止に関する関心・理解について



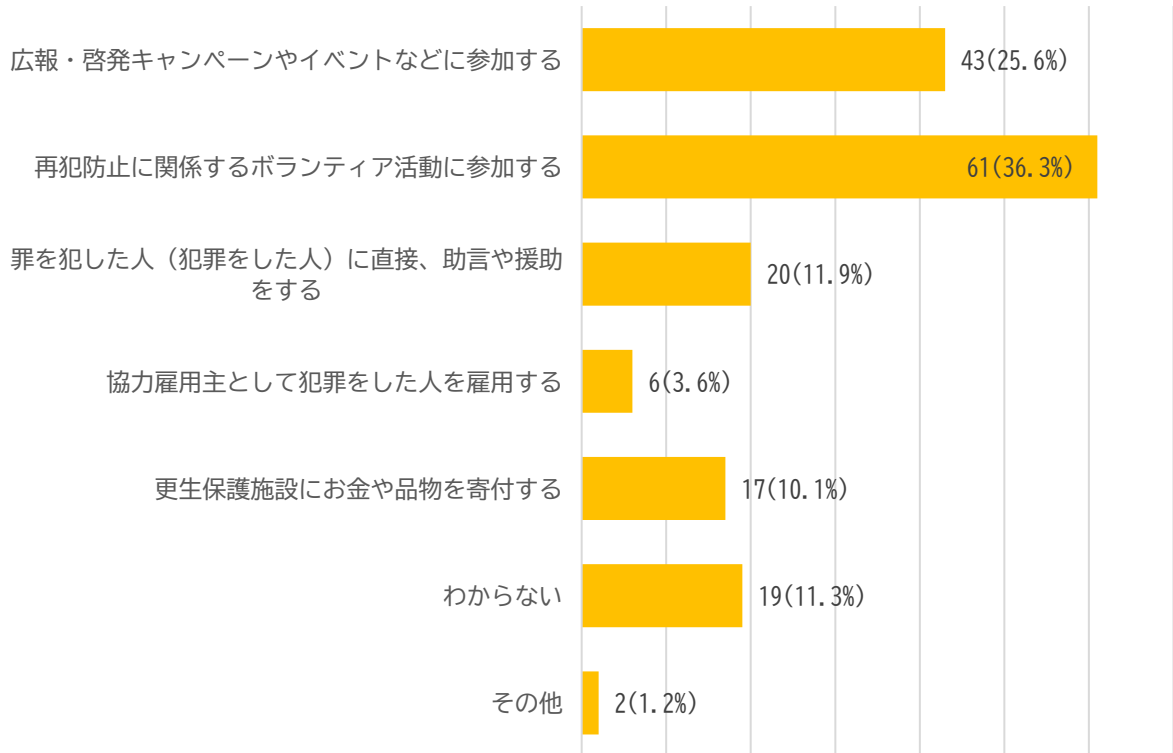
再犯防止に関する関心について尋ねたところ、「ある程度関心がある」が165名（49%）と最も多く、続いて「あまり関心がない」が104名（30.9%）、「非常に関心がある」が30名（8.9%）だった。

【問7】 罪を犯したり、非行をした人の立ち直りに関する支援に協力したいと思うか



罪を犯したり、非行をした人の立ち直りに関する支援に協力したいかについて尋ねたところ、「どちらかといえば思わない」が105名（31.2%）と最も多く、続いて「どちらかといえば思う」が100名（29.7%）、「わからない」が72名（21.4%）だった。

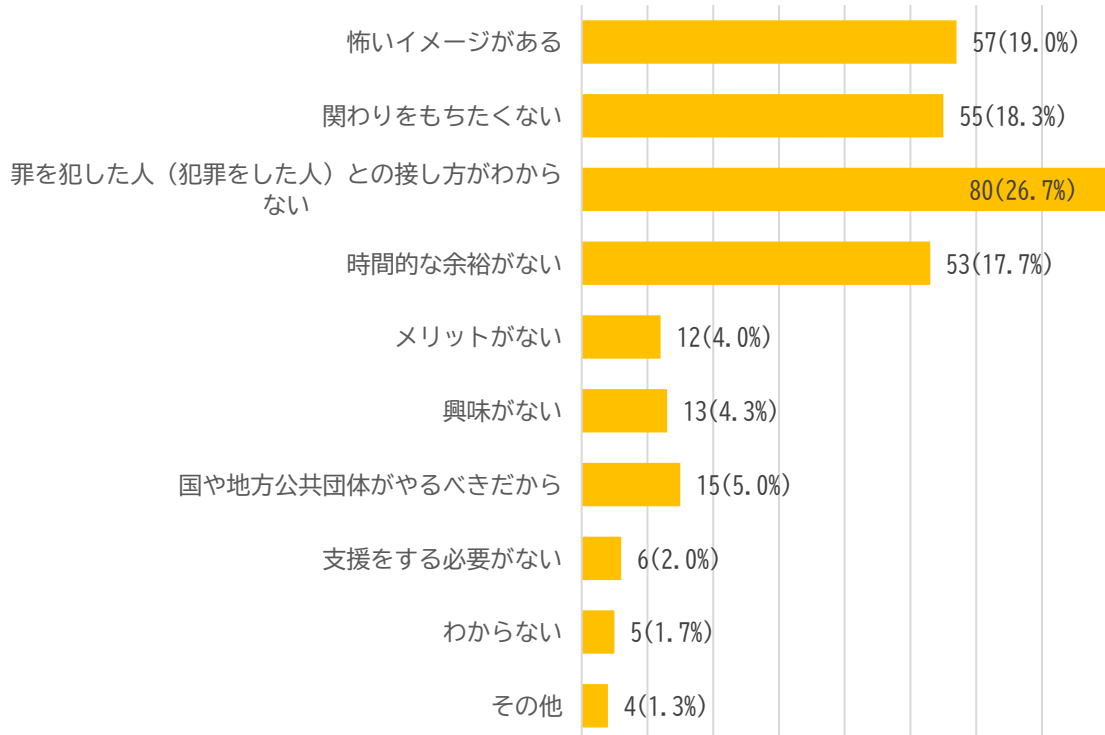
【問8】どのような協力をしたいか※複数回答可
(問7で「思う」「どちらかといえば思う」と回答した者に依頼)



問7で「思う」「どちらかといえば思う」と回答した方を対象に、どのような協力をしたいかについて尋ねたところ、「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」が61名(36.3%)と最も多く、続いて「広報・啓発キャンペーンやイベントなどに参加する」が43名(25.6%)、「罪を犯した人(犯罪をした人)に直接、助言や援助をする」が20名(11.9%)だった。

また、その他の主な回答としては「個人的にできることがあれば…」等であった。

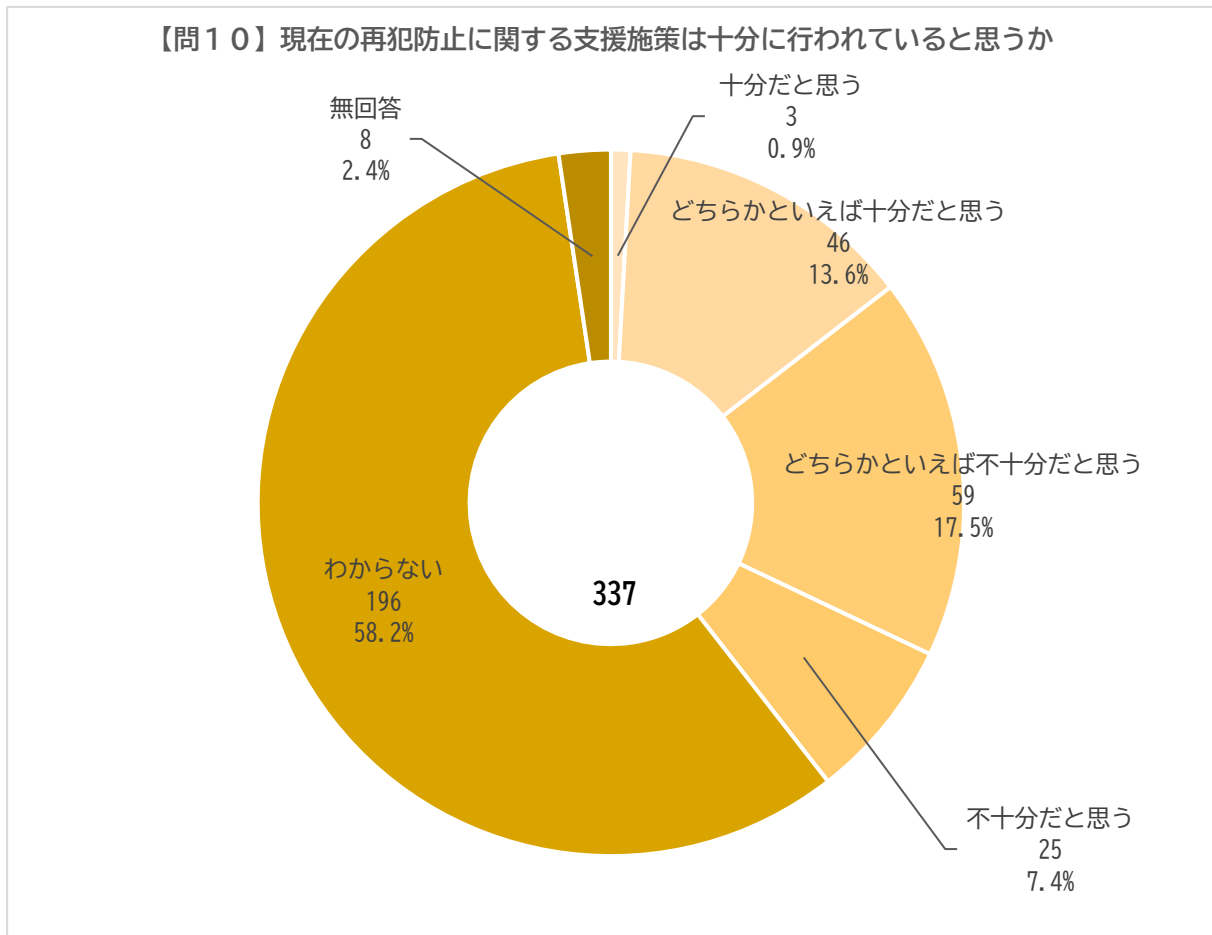
【問9】問7で「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した理由



問7で「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した方を対象に、その理由について尋ねたところ、「罪を犯した人（犯罪をした人）との接し方がわからない」が80名（26.7%）と最も多く、続いて「怖いイメージがある」が57名（19%）、「関わりを持ちたくない」が55名（18.3%）だった。

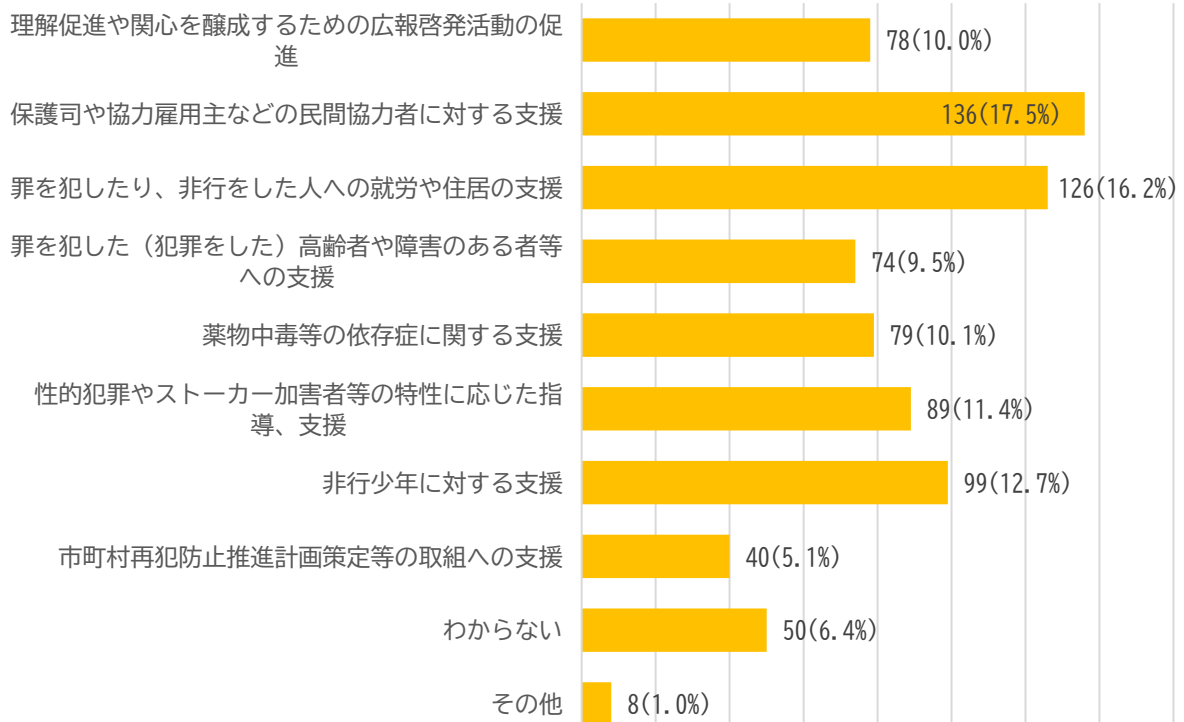
また、その他の主な回答としては「とても大事なことだと思うので、私のような素人ではなく、きちんと知識や経験のある方に支援をお願いしたいです。支援することは必要だと思いますし、とても大事だと思います」「他人に寄りそえるほど時間、心、金に余裕はない」「まず被害者が満足できる施策が先」等であった。

(4) 再犯防止に関する支援施策について



現在の再犯防止に関する支援施策は十分行われていると思うかについて尋ねたところ、「わからない」が196名（58.2%）と最も多く、続いて「どちらかといえば不十分だと思う」が59名（17.5%）、「どちらかといえば十分だと思う」が46名（13.6%）だった。

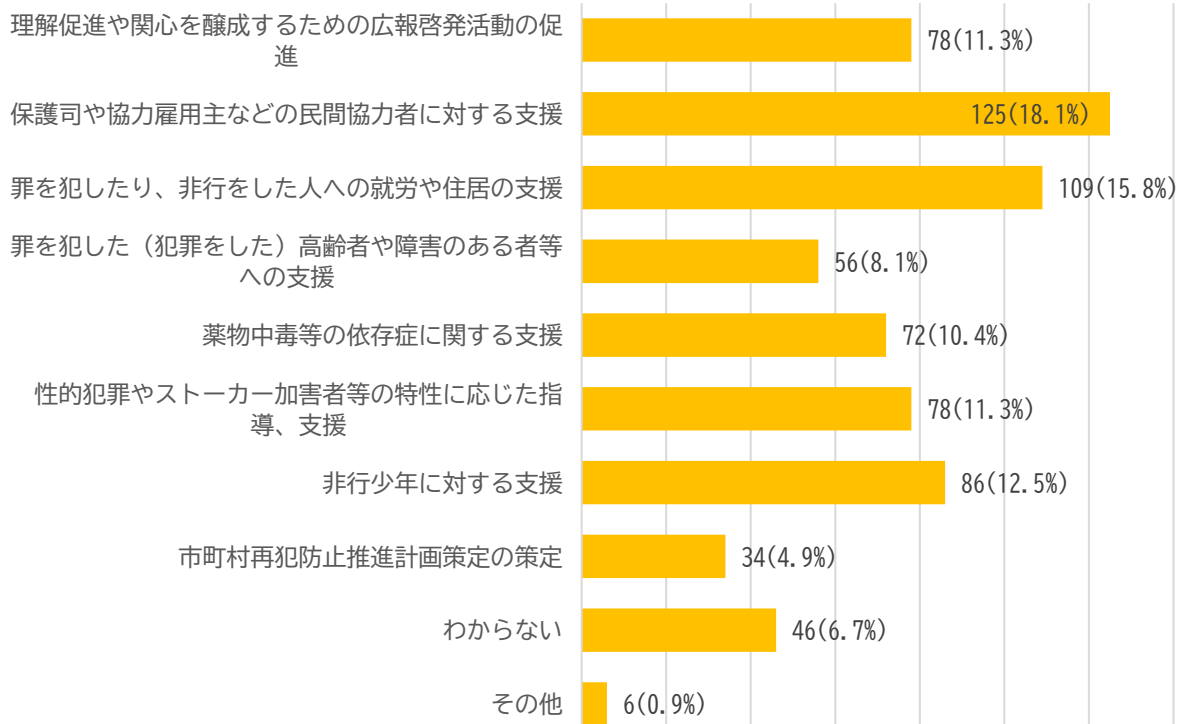
【問 11】 県は、再犯防止に関してどのような施策に関して力を入れていくべきか
※3つまで回答可



県がどのような再犯防止施策に力を入れていくべきかについて尋ねたところ、「保護司や協力雇用主などの民間協力者に対する支援」が136名（17.5%）と最も多く、続いて「罪を犯したり、非行をした人への就労や住居の支援」が126名（16.2%）、「非行少年に対する支援」が99名（12.7%）だった。

また、その他の主な回答としては「ここまでの質問内容も含めて罪を犯した人が2度としない為に税金を使って再犯防止策を…には違和感があります。被害者や、その家族を救う為に税金は使われるべきである。再犯の可能性のある加害者が居るとするならば判決内容が反省させるに充分でなかったわけで！裁判官は猛省をするべき！そして法律を改善するべきと考えます！」「GPSでの管理」「再犯率が高いものは力を入れるべきである」「行政からの支援には限界がある」「もっとキビしく」「罰の強化」「社会復帰時の福祉的支援」等であった。

【問12】市町村は、再犯防止に関してどのような施策に関して力を入れていくべきか
※3つまで回答可



市町村がどのような再犯防止施策に力を入れていくべきかについて尋ねたところ、「保護司や協力雇用主などの民間協力者に対する支援」が125名（18.1%）と最も多く、続いて「罪を犯したり、非行をした人への就労や住居の支援」が109名（15.8%）、「非行少年に対する支援」が86名（12.5%）だった。

また、その他の主な回答としては「県の施策があって、市町村の施策につながっていると感じる。」「行政からの支援には限界がある。」「更生された経験者を雇用し、その知識を共有していく」「犯罪者に支援や税金を投入する前に被害者やその家族にすべきことがありますか？」等であった。

【問13】問11・12で回答をした施策は、具体的にどのような内容ですか（任意）

※主な回答を列挙

○犯罪者を理解している人が直接サポートすることが有効ではないかと思います。犯罪者が信頼して相談できる人が必要だと思います。ただし、犯罪者も多様でしょう。再犯防止の働きかけが有効な犯罪者と、どんなに働きかけをしても意味がない人がいるような気がします。犯罪者の特性に応じた対策やサポートが必要ではないかと思いました。

○具体的には思いつかないが、学校などで教育の一環として講演や相談窓口を設ける、もしくは伝えることも必要であると思う。子供のうちから犯罪やその後の刑罰など知るべきである。専門性が必要とされる内容なので、警察官が伝えることで印象が強く残る気がする。

○ボランティア人材の多くは、おそらく高齢者中心だと思われるので、次世代人材の育成。

○今の若者はどちらかと言えばネットで育ってきた子が多いので SNS などの発信、それを学校で共有したほうが見られる機会が増えるかなと思いました。

○私の知る限りでの話で申し訳ございませんが中学生時代いじめをしていた加害者の男の子は家庭環境に問題があり卒業後自殺しました。非行少年たちに多いのは家庭環境の問題が大きいと考えております 被害者も大変ではあるのですが、少年時代であればまだ救えると思うので家庭環境から放して施設で過ごすというのがあればいいかなと思いました。親や、その場の環境から離れるのって大事だと思います

○貧困によるものなのか、発達障害などが絡むものなのか、家庭環境によるものなのか、ただの欲求なのか等々、罪を犯すにいたった背景によってかなり支援内容が変わると思います。ただ、どんな場合でも生きていくために働いてお金を得る状態をご自身でキープできる or 適切なサポートを受け続けられるための支援は必要だと思います。

○再犯防止等は民間の協力無しでは成り立たないと思う。民間にアピールして、内容を理解してもらうことを優先させる。再発防止に関する取り組みを、知らないことが多すぎる。

○罪を犯したりした人を主な労働者とした コンビニ等やサービス業などの展開 周りの人も同じ境遇の人も多いので後ろめたさも生まれにくいので働きやすいかも

○犯罪者本人にも少なからず、ほとんどの方が必ず罪悪感があると思うので…その気持ちに寄り添って再犯防止に繋がるような施策が不可欠だと思います。なので、表立った啓発活動ばかりではなく、犯罪者本人が気負いせずに相談できるような環境や体制を作れたらいいのではないかと思います。

○・国や県、市町村間での情報共有や職員間によるの研修会や会議などへの助成制度・協力雇用主への助成制度・専門家招聘に係る助成制度

○犯罪者の周りの人への再犯防止教育の向上 犯罪者の周りの人にも、犯罪者が再犯に至ってしまうような、発言や行動をしないように注意を促す。犯罪者の周りの人は、犯罪者に説教などをするのではなく、犯罪者に寄り添い、一緒に再犯しないように努めるシステムみたいなことが出来ないかと考えます。

○県は通所型施設を作り、一緒に食事を作ったり、ボランティアに参加しながら、就職に向けての補助をする。保護者がいない方は宿泊型施設で、就職できるよう、専門員と一緒に生活、指導する。市町村は県と情報共有して、見守りながら、その人に合ったボランティアや、簡単な仕事から、援助する。国の予算が必要だと思いますが、民間ボランティアには、少しハードルが高いと思います。専門の指導員が、仕事として、見守りをすることを望みます。

○犯罪を、犯した青少年の更正施設(居場所の確保と食事の提供などで、安心を与え更正してあげる場所)

○出所した人の再犯や失踪の割合はかなり高いようです。リスクを抱えて雇用する事になりますので刑務所から出所した人を雇用する協力雇用主への金額面での支援を手厚くしてほしいです。

○LGBT法の拡大解釈?のせいで性的犯罪の再犯が起きている事が問題化かと思えます。
・日本に生まれたから日本人ではなく、日本人であり続け様と努力しないと日本人とはかけ離れてしまう。相互理解はもちろんの事ですが、罪を犯した方の反省がみえてこないと協力は難しいと思えます。

○廻りの人の中に再犯者に対する接し方が判らない方だけですので問題の解決する事が難しい状況です。

○食、住に対応した施策及びプライバシーの保護。基盤をしっかりと出来る様に対応して頂ければと思います。

○心のケア。精神面での立ち直りがなによりも大切と思えます その支援をどうしていけるかが大事

○一度罪を犯したり、非行等の行為を行った人間は、簡単には厚生できないし、どんな支援があつたとしても、本人の意思がしっかり確立していないと意味がない。罪を犯してからど

のように生きていくか簡単に支援にはつながっていかないと思う。今の人間社会、、、支援される人と支援する人との信頼関係が構築されることが第一歩

○高齢者・障害者施設等でのサポート的な業務又は小学校等の子供の登下校時の見守り活動参加等、社会が貴者を必要としている事を自覚出来る。肌で本人が感じる事が出来るチャンスを持って頂く環境を作る事が大切である。

○性的犯罪を犯した人が社会にまぎれているのは怖いので その人々を監視する役割が必要。被害にあってからではなく 警察でも指導できると良い

○なぜ罪を犯すことになったか、家庭環境はどうだったのか、性格等等丁寧に取り、検証し、本人が悪いことをすることは、自分も周りも幸せにはできないということを実感できるような、心的(?)な支援も必要ではないでしょうか？

○ホームページや広報での啓発活動などインパクトがある方法で行う。

○保護司や協力雇用主などに対して現在どのくらいの手当等があるかはわかっていないが、手当だったり、司法関係の人と継続したつながりは必要だと思う・非行少年に対しては、そもそも非行にいくまでにいくつかステップがあるし、家庭やいじめなど身近なコミュニティでのいごちの悪さも関連していることがあるのでそこに対して何かすべき

○とても特殊な施策なので、まず指導するスキルを持っている人が県や市町村にどの位存在するのか？そのスキルを取得する為の教育機関が必要かと。専門家を招いて講義したり、実習勉強する等必要かと。

○今後二度と再犯をしないように又はさせないようにするため、民間協力者に対する支援をするとともに、「再犯防止の推進」を一般の人に感心をもってもらう事が大事だと思う。

○薬物や犯罪と距離をとれる環境をつくる

○若者を支援することにより、立ち直り、自立、再犯防止の後押しになると思うから

○自分の近くに保護司をしてらっしゃる方がいました。話の中でご苦労をしているのだと思う事が多々ありましたが、ご自分では、苦労などとは思ってないようで、りっぱだと思ってました。その方達への支援も目をむけてほしいと常日頃感じています。

○テレビの報道番組とか、人伝に見たり聞いたりすることがありますが、罪を犯して社会復帰をしても再犯に及び、服役する人の率の高いということ。社会にうまく戻れないということ

と。もちろん本人の努力もあると思いますが、更生の手助けが、社会の中で、まだまだ行き届いていないのかと。私達の、彼らへの目の向け方、心の中の捉え方にも大きな問題はあり、それを少しでも変えてゆく事は難しいが、してゆかなければならない事だと思います。

○社会復帰をする為にはかならず就労して収入を得る事が必要となる安定した生活があれば再犯防止になるのでは？という観点から就労支援の強化が必要な気がします。民間企業だけでなく、国、県、市町村を含め就労支援を立ち上げてみては？

○非行をする子供は、家庭事情が悪いので（親が子供に愛情をそそがない）親も自分が中心である。子供でしたら、学校で情報発信して上げて、食べる物がなければ、どこの場所に行けばこども食堂があるか、学校の保健室に一覧表して、貼ってもらいたいです。担任が、保健室に行くように、指導するしかないと思います。保健室、先生方も大変だと思いますが、今の時代は、昔にくらべてすごい、格差社会になっています。だれかが、手をさしのべてあげないと、子供はだめになってしまいます。

○再犯防止を推進していく事はとても大事なことです。悪のない自由で安心して暮らしていける社会が望まれる。その為に、罪を犯した者に再犯しないように指導するには専門的なスキル、技術をもった人材を育てなければならないと思う。

○若者による薬物使用が増加していると思います。それによる身体への悪影響や、副作用の怖さを伝える事は重要だと思います。

○知らない人が多いので、まず制度など、多くの人に理解してもらう事が大切ではないでしょうか。制度、施策があるとわかれば、支援方法も見えてくるのだと思います。

○罪を犯した個人それぞれを支援する体制を地域の中でつくっていくことが重要だと思います。

○薬物依存からの立ち直りのための施設を増やす。相談などを受ける専門知識のある人材の育成。

○再犯を犯す人は、原因はそれぞれだと思います。環境や経済的なものでしたら、支援の有効性があると思いますが、病的や先天的な原因もあり、それに合った対応が必要だと思います。また、再犯の厳罰化も必要かと思います。

○メンタルケアの医療機関を含む相談窓口

○性犯罪者は、再犯率が高いため、幼い子供や女性を守るため、その人自身に更生プログラムをしっかりと行ったり、他国のように、地域の人が自ら身を守るために、所在を知らせるシステムを作ってほしいと思います。

○子どもたちに学校や地域での啓蒙イベント

(5) 再犯防止の推進についての自由意見

【問 14】再犯防止の推進に関する取り組み充実のために、ご意見、ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください

※主な回答を列挙

○再犯防止についての知識や関心はあるようで無いのが現状です。地域では犯罪について「困った」とか「怖い」という意識は高いのですが、だからといって何か取り組みをすることとはほとんどありません。

○高齢者の再犯が多いと聞いた事がある。よくわからないが、福祉のお粗末さも関係しているのではないか、と思う部分もある。

○再犯率が高いのは、性犯罪と薬物中毒ではないかと思うので、ある程度集中させた方がよいと思います。

○犯罪した人の大きい施設などをして社会にでれる支援してあげほしい

○すでに行なっていると思いますが、なぜ犯罪を犯すようになったかその経緯を聞いてそれを取り除いてやる。

○働く支援は大事。

○再犯率を下げるよう社会全体で取り組んでいかななくてはいけないとは思いますが、実際は怖さもあり、自分にできることがあるのだろうか、と思うだけで終わってしまいます。実際に尽力されている方々に尊敬と感謝の気持ちをお伝えしたいです。

○ほとんど何も知らずに申し訳ございませんでしたが 犯罪者の再犯防止のほかにも被害者支援を共にできたらと思いました。すでにされていると思いますが、どちらの話もよく聞くことが大事かなと思いました。

○犯罪が無くなる、少なくなる事が1番ですが、犯罪者、犯罪被害者に寄り添えるような人材が増えていくといいと思います。

○県・市町村における専門家を増やせばよいと思う

○小学校低学年から、友達との信頼関係の重要性を理解させる。「人に迷惑をかけない」ことの難しさを教育する。頭が柔軟な時期に、「自分の考え」と「相手の立場に立った考え」ができる教育を行う。

○犯罪に至った経緯によると思いますが、更生の可能性がある人については、再犯の歯止めとなる要素を見出して行政としてその機会を提供してあげることが必要かと思います。また、そもそも学校教育の段階で犯罪の種類やその犯罪を犯すことがどのような結果をもたらすかをきちんと教育しておく事も重要かと思います。

○保護観察官など専門的分野に携わる人材によるサポート。対象者の人的な課題や問題解決に向けた傾聴と対話の継続した取り組み。

○地域単位の協力体制、援護の確立。まずは、場を設ける必要。地域住民で話し合いが、成り立てばより充実出来ます。

○昨今話題になりました書籍「ケーキの切れない非行少年たち」にありますように、「犯罪」と「知能」の関係の研究が近年進んでおります。差別につながる可能性もあるため非常にデリケートな分野ではありますが、所謂「境界知能」と呼ばれる方々が犯罪を繰り返しやすいというデータも存在しています。そういった方へ、特化した形の支援を必要だと強く感じております。

○同じ罪を犯した方が、どのように更正したかが、良いアドバイスになると思います。経験者でないと、わかりませんから。経験者以外からの意見は、聞き入れません。同じ気持ちが大切なアドバイスだと思います。あとは、罪を犯した時の取り調べされた警察官の器でも、今後の人生を左右されますと、思います。その方の回りの環境でも、変わります。孤独な方は、必ず『見方』が必要だと思います。

○犯罪を防止するにはやはり教育が一番大事だと思います。教育に予算を多くして頂きたいと思います。

○過去に犯罪経験がある人に就労支援があることを知らせることが重要だと思う

○根本的に再犯する人がいるので GPS で監視すること

○ニュース等で見聞きする犯罪は大変複雑多様化しており、保護司などの過去の対応では難しい局面にもなっている SNS などネット上での再犯防止対策を幅広く広範囲に充実させることが対策になる可能性を感じる

○再犯防止の取り組みも重要だと思いますが、それと平行して、犯罪者を減らす取り組みも必要だと思います。犯罪を犯す原因に家庭環境が影響しているのなら、それを改善する取り組みを行うとか。

○保護司など再犯防止対策の実施者のやる気を維持・向上させることを考える。県や各市町村の、保護司など再犯防止対策の実施者以外の職員も、保護司など再犯防止対策の実施者に協力するようなシステムを検討して、保護司など再犯防止対策の実施者に任せっきりにさせないようにする。

○加害者による再犯防止も大切ですが、被害者も加害者に対して罪を犯してしまうこともありえると思うので、そういった深い部分まで追求していくことが大切ではないかと思えます。

○県と市町村で情報共有してほしいです。教師の犯罪も増えていて、県をまたぐと簡単に再就職できてしまう現実もあるようです。他県との情報共有もして頂きたいです。

○いろいろな犯罪に対して、再犯防止をするためには、どのような対策が必要か、専門に研究して対応してもらえる専門家を大勢育成して欲しい。異動などで、短い期間対応するのではなく、長期的な対応が望ましく思います。

○若者や周りに罪を犯した人がいる環境ではない人たちはこのことについてよく知らないので SNS 等を使い発信していった方がいいと思う

○犯罪を犯しても、反省して更生して行く人を社会全体で支えていくことが大切だと思います。戻る場所（家族など）がある方はいいと思いますが、戻り場所や頼るところがない方も多いと思います。そのような方を支えていく場所があると、再犯防止を支えてくれると思います。

○法務省の再犯防止推進法に基づく再犯防止推進計画が大変参考になりました。

○・年金受給の先行に、不透明感が強くなっている。高齢者が万引等の罪を犯さない様に生活支援、指導を細かく出来ないか。・民間ボランティアの保護司や民生委員等への報酬が出せないか

○犯罪防止と被害者を生まない様にするためみんなの明るい言葉と思いやりで再出発も受け入れる社会にしてほしい。

○罪を犯した人に刑罰を重視するよりボランティア活動などを長い年月課すことが一つの方法のような気がする。ただ、これも罪の内容によりけりかもしれないが。

○再犯防止の推進は大事だが、民間人（協力者）はどうかと思う。私は、そういう人達とは関わりたくない。

○少し難しい内容です もし知り合いで犯罪をした人が居たら私は心から助けたいと思う。

○地域全体で見守ってあげられる地域社会であって欲しい。

○高齢者・障害者施設等でのサポート的な業務又は小学校等の子供の登下校時の見守り活動参加等、社会が貴者を必要としている事を自覚出来る。肌で本人が感じることが出来るチャンスを持って頂く環境を作る事が大切である。

○被害にあいやすいのは非力な女性、子供がほとんどで防犯ブザーなどがあってもとっさに対応できないことが多い。性犯罪者に GPS 装着義務化実現して欲しい

○第一義に考えることは、犯罪者をつくらないことだと思います。その為には家庭・学校・社会が一体となり幼いうちから継続して物事の善悪を教しえ、人間形成に努めることだと思います。

○県職員様 いつも県民の為に尽力くださりありがとうございます。再発防止だけにかかわらず県民の皆さまがいろいろな悩みやつらさを相談できる窓口の強化が大切なように思います。差別やいじめのない信頼関係を大切に市町村窓口、窓口で相談しにくい場合は県に直接相談できる窓口とか、BSS 会や SNS などでも相談できる環境があるとよいのかもしれませんが。必要なところに必要な支援が届くことを願っております。

○私も含めて推進計画を知らない人も多いと思うのでインパクトのある方法で県民に事業の周知を図ってほしい。

○再犯防止に対して関心があり協力したいと思ってもどんな支援をしたらよいかわからない。ボランティア活動やイベントの広報活動を促進して欲しい。

○もっとテレビでやったほうがよい

○現在少年犯罪が多く心配です。家庭での問題もあるかと思うが学校での生活もなんらかの影響していると感じます。子供達が犯罪を犯してしまう前にもう少し早くみつける事ができないか専門の先生がほしいです（学校内に）

○地味に地域で感心のある人たちをあつめて、啓発活動をする事かもしれません。

○なぜ、罪をおかしてしまったのか 原因を知り、心の支えになって、支援が必要なのでしようね。

○かれこれ 20 年近くなりますが、山梨ダルク主催のフォーラムが地元で開催されました。地元役員という立場でもありお誘いがあり出席しました。そこで再犯防止に向けての更生保護施設等を知りました。当時から現在におきましても年数回の活動報告と募金の振込用紙が郵送されて来ます。更正の為の報告はかなりの日程で活動されている事が伺え、各関係者の方々のご尽力を想像出来ますが、当事者さん達がどのように立ち直って、社会復帰し就業を得て活躍されているという報告は殆んどありません。それは社会復帰に協力する雇用主の無さを物語っているように思います。依存生活から立ち直る生活も、善意ある方々の莫大な寄付から始まっています。それ以上に社会に参加できる為の雇用主、協力者に対する国からの支援の充実も大切だと思います。

○犯罪をするには、性格（人格）、環境など理由や背景があるのだと思うので、まず、専門家の手もかりて、加害者を理解するべきだと思います。その上でそれでも、脳（思考）や性格は変わらない、又理性の欠如している人は、犯す可能性が高いので日常の警察、周囲の人の支援や戒めが必要不可欠だと思います。

○衣食足りて礼節を知る 貧困から生れた犯罪も多いことと思います。豊かな物に囲まれているハズの現在の生活も、生活水準の二極化で、物心両面から満たされず、犯罪に手を染める人も出てきているのではないかと考える。生活の安定が大切と思う若人の罪の意識の希薄さもあるのか・・・??

○犯罪を犯した人、その家族は孤立しやすい環境になるケースが多いと思います。周囲の方の温かい対応や、本人たちの地域や社会への奉仕の心を育むことも大切かと思えます。人はだれでも、社会の役になりたい。という願望をもっているはずなので、その気持ちをのばすことができたらいいと思います。

○薬物をした人に生活保護を受けているがおかしいと思う。他に、対策法を考えてほしい。上野原は薬物を犯した人にあまいと思います。

○再犯防止に向けてどんな対策がなされ、どんな関係団体があるかをもっと周知して理解を深めることをもう少し強く推めることが大事ではないか。

○生きづらい世の中と言えれば罪を犯す人達の言い訳になるのかも知れませんが、生活困窮、家庭の事情、心の不安等、罪を犯す事情は様々だと思うが、時代と共に他人に対して無関心になっている事は事実だと思う。他人との関係の希薄さを思う。（特に都会においては）日常の忙しさを思う時、その方が生き易いという事だろうが。いつも、何かの事件のニュース等を目にする時、この事件に至る前に、誰か、近くに相談出来る人がいなかったのか、もしそんな人がいたら、この様な事件に及ばなかったのではと、いつも、そんな事を考えます。

○10代の若者は、心がまだ未完成なので、物事を軽く考えているようです。中学校で何をしたら罪になるかを具体的に教えるべきです。(例)人を刺したら、形務所に入らなければならないとかを、今でしたら、PCにとり入れて、学校に、他から、専門の形務官を、招いて、形務所の一日の流れを、映像で流してみるとか、具体的に学校で学んだらいかがですか。親が、教えて上げられない事は、専門家の方たちに、頼んだほうが良いと思います。

○再犯防止に協力する民間協力者(例えば保護士)の活動報告を直接聞く機会があれば良い。①どのような活動をしているのか(現状報告) ②もっとも苦労している事とかを知ると協力する意識も変わってくると思う。

○人間生きて行く上で、何か人の役に立てる事ができたら幸せだと思うが、罪の大きさにもよるだろうが、人間の心が悪さをさせるものに関して、いかなる言葉で再犯を防止する事ができるのか 自分では勇気がないが、とても必要な事ではあると思う。

○再犯防止に必要なのは、多数の企業の理解と協力が必要だと思います。偏見なく働く意欲を尊重してあげる企業への呼びかけが必要だと思います。

○若い子が更生していくには温かい大人が必要です。それでも裏切られることもありますがお互いによりそう姿勢をあきらめてはいけません。若い時に非行のある少年少女と関わる機会がありました。短い期間でしたが、みんなかわいかったです。そして淋しいそうでした。また会いたいな・・・とよく思い出します。非行をおかした子も、そんな大人とたくさん出会ってほしいです。

○民間協力者など、もっと県民に対して周知してもらおう対策が必要。私は、初めて今回のアンケートで知りました。

○忍耐強い支援が大切だと思います。

○今回沢山の支援がある事を知りました。

○犯罪をした者には、タグをつけ、どこで何をしているか?社会が監視すべき。これが、再犯の防止になると考える。

○刑務所から地域に帰っていく人を、ケアマネージャーのように支援する人が全員に必要だと思います。高齢者は病院に入院中から地域に帰る際の体制をととのえて、病院と地域の関係者が連携をとっていきます。同じような支援体制を、再犯防止のためにつくり、刑務所と地域の関係者が連携をとっていく必要があると思います。

○ホームページやインターネットは興味がないとアクセスしないので、どうしてもテレビ、ラジオ、ポスターなどからの情報になってしまう。私自身知らないことが多かった。こういうことは、警察関係のOBがやることだというイメージが強い。

○一度のまちがいで・・・という方以外に、発達特性・生育環境から生きづらさを抱えている人たちがたくさんいて、これから子どもの数はへっても、上記のような人数はどんどん増えていくと思います。早い段階（幼少期）から教育、療育、福祉を支えていくことが、再犯リスクをへらしていけるのだと思います。

○民間の人達の協力が必要であると思う。市やくしょ所の人達だけでは人手が足りないと思う。

○話はズレますが、犯罪被害者やその家族等への支援の方が必要かと思います。